

「臨床から“智”をつむぐ 研究へのウェーブ」

開催日：平成22年3月7日(日) 9:00~16:30

開催地：香川大学医学部キャンパス 実行委員長：内藤直子（香川大学医学部看護学科教授）

午前の部 開会式

一般演題（口演・示説）

ワークショップ：EduCanvasによるe-learningの紹介

総会

午後の部

特別講演：「質的研究は看護実践を変えられるか：
M-GTAの考え方と実際の分析方法」

講師：木下康仁（立教大学社会学部教授）

特別セミナー

【第23回学術集会企画】

「質的研究用のPCソフト・ATLAS.tiの紹介」

深堀浩樹（東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科）

【学術委員会企画】

「初めて研究をする方のために」

宮腰 由紀子(広島大学大学院保健学研究科)

「Culture, Caring and Action Research(文化と思いやりとアクションリサーチ)」

Jeremiah Mock, M.Sc., Ph.D.

(School of Nursing University of California, San Francisco)

「英文抄録の書き方」

上鶴 重美（一般社団法人 日本看護研究学会国際活動推進委員）

閉会式

*連絡先：一般社団法人 日本看護研究学会中国・四国地方会 第23回学術集会事務局

〒761-0793 香川県木田郡三木町池戸1750-1 香川大学医学部母性看護学

Tel&Fax：087-891-2243

(第23回学術集会事務局専用)

E-mail kuudon@med.kagawa-u.ac.jp

ホームページ <http://www.med.kagawa-u.ac.jp/~ku23udon/>

懇親会のお知らせ

懇親会では、海外でも好評の吉田光華に、乙女文楽のみやびな演目「さくら華舞」「静御前」の特別公演や、香川特有の文化で幾万年前の調べ、サヌカイトの演奏等で、多数の参加をお待ちしています。

日時：3月6日17:30~

場所：高松国際ホテル

懇親会費：5,000円

日本看護研究学会第23回中国・四国地方会学術集会にあたって
メインテーマ：臨床から“智”をつむぐ研究へのウエーブ

ご 換 拶



一般社団法人日本看護研究学会
第23回中国・四国地方会学術集会
実行委員長 内藤直子

今回の第23回中国・四国地方会学術集会ではメインテーマを、「臨床から“智”をつむぐ研究へのウエーブ」としました。臨床の看護職や教育現場の看護教員が行う看護研究では、看護独自の視点から患者や家族の体験やその看護を明らかにすることが社会から求められています。それには、看護ケアに内在する臨床智の蓄積が重要であり、「臨床にある“智”を良く見える目でとらえ、糸を紡ぐように丁寧にたぐり寄せ、創り出していく研究」は、臨床における看護の素晴らしさや人間の奥深さに気づかせてくれます。

従来から、量的研究（Quantitative Research）、質的研究（Qualitative Research）が行われ、近年にはその併用のトランアンギュレーション法やミックス法などで、研究の信頼性と妥当性を高める努力がなされています。そこで、今回の学会は、参加者個々の研究で、入門・発展・進化の、どんなステージでも役立ち、看護の新たな発見の一助になればという願いで、学術集会のテーマを設定しました。特別講演は、グランドットセオリーで多大な貢献をされている木下康仁先生に、「質的研究は看護実践を変えられるか：M-GTAの考え方と実際の分析方法」をお願いしております。特別セミナーは、英語論文の入門および発展への研究方法、さらに質的研究PCソフトの活用について企画しました。

発表形態では、口演発表・示説発表に加えて、IT教材の体験を伴うワークショップを企画し、全体で72題の発表を用意することができました。研究発表の方々に敬意を表し、讃岐の丘で開催されることを光栄に思います。

一般社団法人日本看護研究学会の会員の方や、これから会員になられる方、看護の未来を担う学生や大学院生の方の多くの参加を、屋島山頂からの優美な島々の眺望とおいしい「讃岐うどん」とともに、お待ちしております。

参加された方が、新しい学びや体験をされ、看護の発展に寄与できる学術集会となりますよう、心から願っています。

2010年2月10日

おいでまあ～せ！ 香川へ

日本看護研究学会第23回中国・四国地方会学術集会にあたって
メインテーマ：臨床から“智”をつむぐ研究へのウェーブ

ご 換 拶



一般社団法人日本看護研究学会
第23回中国・四国地方会学術集会
実行委員長 内藤 直子

今回の第23回中国・四国地方会学術集会ではメインテーマを、「臨床から“智”をつむぐ研究へのウェーブ」としました。臨床の看護職や教育現場の看護教員が行う看護研究では、看護独自の視点から患者や家族の体験やその看護を明らかにすることが社会から求められています。それには、看護ケアに内在する臨床智の蓄積が重要であり、「臨床にある“智”を良く見える目でとらえ、糸を紡ぐように丁寧にたぐり寄せ、創り出していく研究」は、臨床における看護の素晴らしさや人間の奥深さに気づかせてくれます。

従来から、量的研究（Quantitative Research）、質的研究（Qualitative Research）が行われ、近年にはその併用のトランアンギュレーション法やミックス法などで、研究の信頼性と妥当性を高める努力がなされています。そこで、今回の学会は、参加者個々の研究で、入門・発展・進化の、どんなステージでも役立ち、看護の新たな発見の一助になればという願いで、学術集会のテーマを設定しました。特別講演は、グランドセッションで多大な貢献をされている木下康仁先生に、「質的研究は看護実践を変えられるか：M-GTAの考え方と実際の分析方法」をお願いしております。特別セミナーは、英語論文の入門および発展への研究方法、さらに質的研究PCソフトの活用について企画しました。

発表形態では、口演発表・示説発表に加えて、IT教材の体験を伴うワークショップを企画し、全体で72題の発表を用意することができました。研究発表の方々に敬意を表し、讃岐の丘で開催されることを光栄に思います。

一般社団法人日本看護研究学会の会員の方や、これから会員になられる方、看護の未来を担う学生や大学院生の方の多くの参加を、屋島山頂からの優美な島々の眺望とおいしい「讃岐うどん」とともに、お待ちしております。

参加された方が、新しい学びや体験をされ、看護の発展に寄与できる学術集会となりますよう、心から願っています。

2010年2月10日

おいでまあ～せ！ 香川へ

